

令和元（2019）年度 横川中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

- ・ 「人権尊重の教育」を基盤とし、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して、主体的・創造的に生きる、人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標（具体的な児童像など）

- ・ 思いやりのある子ども（思いやり星）
- ・ よく考え進んで学ぶ子ども（学び星）
- ・ 健康でねばり強い子ども（健康星）
- ・ 働く喜びを知る子ども（働き星）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「思いやり・ねばり強さ・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

グローバル社会の進展，情報社会・科学技術の進展，少子高齢化の進行，環境問題・防災への関心の高まり，児童虐待の増加や子どもの貧困といった変化の激しい社会を生きるためには，「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「主体的に取り組む態度」の資質・能力の育成求められる。これらの実現のため，学校は組織として，学校教育の改善・充実に向けたカリキュラムマネジメントや，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む必要がある。また，現代的な諸課題に対応するための資質・能力や，知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を身に付けるためには，生きて働く知識・技能を習得する学習活動・探究活動の充実と，学びに向かう力と豊かな人間性の涵養等を図る教育活動を展開する必要がある。

これらの教育活動の実現のためには，教育目標に掲げる本校の伝統と校風を引き継ぎつつ，全ての教職員が組織として行動し，個々の能力を最大限に発揮するとともに，キャリアステージに応じた資質を獲得することが不可欠である。このため，教師の授業力を磨き，学級力を高める指導の在り方テーマに共同研究に取り組んでいく。また，これら「信頼される教職員を育て，学校の組織力を高める」ための取組は，保護者・地域と連携・協働した学校づくりの実現に向けた施策・事業の展開が不可欠である。学校の教育活動と保護者・地域の教育力を生かした教育システムの協働事業のため，「魅力ある学校づくり地域協議会」を核として共に学ぶ楽しい学校を目指し，「地域とともにある学校づくり」を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営の適正化

創立 146 年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し，児童・地域の実情を踏まえ，学習指導要領に基づき，学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に，地域の教育力の導入を推進し，活気あふれる学校づくりに努める。

（2）教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに，人づくりの使命感に立ち，学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み，自身の資質向上を図り，和と協働を基盤に，教職員一人一人の特性やよさを生かし，児童・保護者と共に学校づくりに努める。

（3）学年・学級経営の充実

児童一人一人の興味・関心・意欲や個性等に配慮し，主体的・対話的で深い学びに向けた学級集団づくりと，活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

（4）学習指導の充実

児童主体の分かる授業，楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み，基礎・基本の確実な定着を図り，思考力・判断力・実践力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

（5）豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に，様々な体験活動を通して，生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し，心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

（6）児童指導の充実

全教職員の認識を共有し，児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め，共感的理解に基づいた人間関係を確立し，日常のふれあいを通して，基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに，社会性の育成に努める。

(7) 体力の向上と保健安全教育の充実

本校の課題である児童の体力向上を目指し、自ら進んで運動に親しみ、健やかな体を育む保健体育指導の充実を図ると共に、健康・保健・安全指導の推進に努める。

○(8) 地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり

地域の教育力を生かし、家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら、充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また、児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れた、特色ある学校づくりに努める。

(9) 地域に開かれた学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践により、学校と保護者地域等の信頼関係を深め、地域に開かれた学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

[横川地域学校園教育ビジョン]

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」

～自分、人、地域を大切にする子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2020」に示された基本理念である「とちぎから世界を見つめ 地域とつながり 未来に向かって ともに歩み続ける人間を育てます。」を目指し、「とちぎの子どもの基礎・基本」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画」(うつのみやいきいき学校プラン)を基に、その施策の柱である地域学校園構想・小中一貫教育を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科「道徳」、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。(教科横断的な視点より)

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 思いやりの心の育成

「特別の教科道徳」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

(2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善(授業力の向上)や、子どもたちの良好な人間関係(学級力)を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

(3) リーダー性の育成

特別活動(学級活動及びクラブ・委員会・児童会等の活動)の活性化を図るとともに、教育的ニーズに応じた多様な学びの場の充実により、児童の社会性の育成に努める。

(4) 地域と共にある学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を生かした教育システムを積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

【 学 校 運 営 】

- ・ 教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・ 共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

○・主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。(乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実、等)

【学 習 指 導】

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、以下のテーマで研究に取り組む。
「教師の授業力を磨き、学級力を高める指導の在り方」

【児童生徒指導】

- ・ 道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・ いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

【健康(保健安全・食育)・体力】

- ・ 教科指導の充実や学校行事、児童会活動等の機会を通して、運動に親しもうとする態度・能力や、健康を大切に管理する態度の育成を図る。
- ・ 給食指導を中心に、より良い食習慣について児童自らが考え実践できるよう指導の充実を図ると共に、家庭・地域と連携して、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成を図る。

6 自己評価(評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 話の聞き方、発表の仕方、ノートのとり方など基本的な学習態度・技能を身に付ける指導の充実を図る。一人一人が意見を発表しやすい雰囲気づくりに努める。 ② 授業中の約束を各教室に掲示し、定着を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.6% ・ 目標値を上回った。 ・ 学習用具の決まりが定着できた。 ・ 授業の前に着席し、チャイムを守る行動はできてきている。 ・ 話型を活用することで、話し方や発表の仕方が定着してきた。今後も引き続き、話の聞き方や発表の仕方を各クラスで掲示し、活用していく。 【次年度の方針】 ・ 話の聞き方や発表の仕方の指導は、引き続き行っていく。 ・ 横川中央小の授業中の約束を各教室に掲示し、児童の意識を高める。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 縦割り班活動・奉仕活動を中心とした体験活動の充実により思いやりの心を育成する。 ② 人権教育を推進し、教育活動全体を通して、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。(思ちゃんコーナーの継続)	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.5% ・ 目標値に達することができなかった。 ・ 縦割り班活動では、高学年を中心として異学年交流の充実に努めた。 ・ 各学級では、おもちゃコーナーを活用し、互いの良さを認め合う場を設定した。 【次年度の方針】 ・ 思ちゃんカードを用いた各クラス掲示物や学校全体で思ちゃんコーナーを活用した人権教育活動を継続するとともに、活性化を図る。 ・ 縦割り班活動での異学年交流の充実に継続的に思いやりの心を育てる。

指 す 児 童 の 姿	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 生活目標（短期的な具体目標）を設定し、基本的な行動様式の指導を徹底し、習慣化を図る。 ・言葉づかい…できていない児童にその都度指導し、徹底を図る。 ・廊下歩行…生活当番の見回りを強化するとともに、児童会で呼びかける活動を行い、児童に廊下の歩行を促す。 ② <u>横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。</u> 児童会の活動を中心にして、継続する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.4% ・目標値に達することができなかった。 ・生活目標を設定し、規範意識の醸成を図った。 ・基本的な行動様式の習慣化を図ったが、定着することはできなかった。 【次年度の方針】 ・言葉遣い、廊下歩行について継続的に指導することによって個々の習慣化を図る。 ・生活当番による校内巡視や児童会児童を中心に、校内や校庭での呼びかけ活動を継続する。 ・道徳や学級活動を中心としてきまりやマナーを守ることの大切さを考えさせる。 ・横川地域学校園で掲げるスローガンについて継続的に指導する。
	A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 家庭や地域団体と連携しながらあいさつ運動を継続し、あいさつの日常化を図る。よくできている児童を学級や学年集会等で称賛し、意欲の向上を図る。 ・児童会主体のあいさつ運動 ・小中あいさつ運動 ・教職員によるあいさつ運動 ・地域協力者によるあいさつ運動 ② <u>横川地域学校園による「あいさつ運動」を実施する。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.7% ・目標値を上回った。 ・あいさつ運動が充実し、校内でもあいさつができる児童が増えた。 ・教職員の日常的指導が効果的であった。 【次年度の方針】 ・校外で保護者や地域の方々にも挨拶できるように教職員の日常指導を継続する。
	A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学期ごとに学習や生活のめあてを立て、あきらめずに取り組めるよう努める。 ② 学校行事や児童会活動、各種検定等での目標を持たせたり、役割を最後まで果たせたりできるように指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.0% ・目標値を上回った。 ・学期ごとなどにめあてを立て、随時振り返らせることで、めあてを意識した生活ができるようになった。 ・各種頑張りカードを有効的に活用した。 ・四つ星のめあてが意欲付けとなり、粘り強く挑戦する気持ちが育ってきた。 【次年度の方針】 ・めあてカードや頑張りカードを随時活用し、自分のめあてに向かってあきらめずに取り組むようにする。 ・四つ星のめあて（学び星・働き星・思いやり星・健康星）に1年間を通して、取り組ませる。担任のみでなく、全職員で見守り、一人一人のよさを認めていく。

目 指 す 児 童 の 姿	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 休み時間の過ごし方・廊下の歩行や、給食時や運動・トイレの後の手洗い・うがいの励行など保健安全指導に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.8% ・目標値を上回った。 ・児童会の各委員会の児童が様々な取り組みで呼びかけたことで、達成することができた。 【次年度の方針】 ・廊下の安全な歩行については、児童会の「廊下走るの禁止スターズ」の取組を継続していく。 ・生活目標でも呼びかけ、週番の教師らによる見回りや声掛けを行い、年間を通して繰り返し指導していく。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 地域と協力して、ボランティア活動や地域の行事に参加する。 ② 各教科や学級活動と関連させ、キャリア教育の充実を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.0% ・目標値を上回った。 ・地域の方に協力いただく場面が多く、その姿から学ぶことができた。 ・各教科や総合の時間等で外部人材を活用し学習を進めたことで、キャリア教育の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・次年度においても、各学年において、計画的に地域の方や企業等の外部人材を活用していく。 ・地域行事に積極的に参加するように、児童に呼び掛けをしていく。
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 外国語活動や外国語の授業では友達と英語でのやりとりをする活動を展開する。 ② ALT との英語でのやり取りを通し、児童が英語にふれる機会を多くする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.9% ・目標値を上回った。 ・授業では、英語に触れる機会を多くすることで、どの児童も簡単な英語での受け答えができるようになった。 ・英語カードを活用し、英語を話すことで、英語での挨拶や簡単なやり取りが定着してきた。 【次年度の方針】 ・次年度も英語カードを活用し、簡単な英語でのやりとりを継続していく。 ・授業以外にも ALT とのコミュニケーションの場を設けていく。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校図書館に宇都宮に関する書籍の常設コーナーを設置し、宇都宮に関する関心を高める。 ② 読み聞かせなどで宇都宮関連の本を取りあげる。	A （達成状況） 児童の肯定的回答率 86.0% ・目標値を下回った。 ・宇都宮に関する常設コーナーを設置したが、児童向けの書籍がなかった。 【次年度の方針】 ・学校図書館に宇都宮コーナーを設置し、児童向けの書籍を充実させたり、パンフレット等を用いたりして宇都宮のよさを発信していく。 ・朝の歌などに音楽に宇都宮の歌を取り入れ、郷土愛を高める。

A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 各教科や総合的な学習の時間においてパソコン、タブレットを活用する。 ② 市立図書館の希望図書や、学校の図書資料を児童が使用しやすいように環境を整える。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.2% ・目標値を上回った。 ・調べ学習を中心に、パソコンを使用した。タブレットは、持ち運びができるため、体育や図工の学習に効果的に活用することができた。 ・南図書館の巡回図書や希望図書、学校の図書資料を学年に設置し、図書利用のしやすい環境を整えることができた。 【次年度の方針】 ・ICT 機器や図書資料が学習に効果的に活用されるよう、利用する場を多く設定する。 ・学習内容に合わせて、計画的に図書資料の準備を行っていく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 高齢者への感謝や敬う心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を設定する。 ② 高齢者を身近な存在として感じることができるよう運動会や感謝の会、給食へ招待するなど、高齢者と交流する機会の設定を工夫する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.5% ・目標値に達することができなかった。 ・生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を行った。 ・運動会や感謝の会には多くの方を招待し、交流した。 【次年度の方針】 ・運動会や感謝の会へ招待するなど、高齢者と交流する機会の設定を、更に工夫する。 ・生活科や総合的な学習の時間において、高齢者と触れ合う機会の設定を工夫する。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 学級活動や各委員会活動を通して、節電・節水に努める。 ② 校内緑化の推進を図る。	【達成状況】 児童の肯定回答率 90.1% ・目標値を上回った。 ・各学級担任が、電気や水道の使い方を指導したことにより、達成することができた。 【次年度の方針】 ・各学級において、係活動を活用し、節電・節水を心掛けるよう引き続き指導していく。 ・栽培委員会の児童や各学年での栽培活動を通して、学校の花壇や教材園の充実を図る。
B1 勤労生産的な活動を計画的に実施し、働く喜びを知る児童の育成に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、清掃活動や栽培活動に一生懸命取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① グリーンカーテンや花壇、教材園など全校あげでの栽培活動や、縦割り清掃、クリーン活動等を計画的・継続的に実施する。 ② 米作りやコスモスロードの整備に児童が主体的に取り組めるよう、計画・実施する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.4% ・目標値を上回った。 ・一年を通して、グリーンカーテンや花壇、教材園などの栽培活動を実施し、主体的に活動する児童の姿が見られた。 【次年度の方針】 ・栽培活動や、縦割り清掃、クリーン活動等を児童が主体的に取り組めるように計画的・継続的に実施する。 ・米作りやコスモスロードの整備に児童が主体的に取り組めるよう、計画・実施する。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒教職員の肯定的回答90%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ② 特別な支援を必要とする児童にとって分かりやすい授業の展開や、誰にでもわかるユニバーサルデザインの指導をし、適切な支援に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% ・目標値を上回った。 ・様々な児童の実態に応じて、計画的・組織的に支援した。 【次年度の方針】 ・個別の支援計画を作成・活用し、さらに組織的に指導にあたる。 ・分かりやすい授業の展開に努め、ユニバーサルデザインの授業をさらに推進する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答90%以上	① 「いじめをしない、させない、許さない」心を培えるよう、あらゆる時間や場において、人権意識を高める指導の充実を図る。 ② 「いじめ調査」や「教育相談」を定期的に行い、早期発見、早期対応に心掛ける。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.6% ・目標値を上回った。 ・児童会を中心にいじめゼロ集会を実施し、内在化を図った。 ・普段の生活の様子やいじめアンケートから早期発見を心掛け、早期対応するなどいじめ根絶に尽力した。 【次年度の方針】 ・人権意識を高める指導の充実を図る。 ・今後も継続して「いじめアンケート」や「教育相談」を定期的に行い、早期発見、早期対応に心掛ける。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスを作ってくれている。」⇒児童の肯定的回答90%以上	① 「挨拶」「励まし」「称賛」等のお互いをより身近に感じることのできるような言葉掛けを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面を授業中に設定したりするなど、自分の居場所となるような温かい雰囲気学の学級経営に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.5% ・目標値を上回った。 ・「挨拶」「励まし」「称賛」等の言葉掛けを継続的にを行いながら、居がい感のある温かい学級経営に努めた。 【次年度の方針】 ・自分の居場所となるような温かい雰囲気の学級経営に努めるとともに、不登校対策委員会等で対応を検討する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒教職員の肯定的回答90%以上	① 外国人児童が円滑に編入学し、充実した学校生活を送れるよう、個々の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行えるよう、全職員が連携し、受け入れ体制づくりに努める。	B 【達成状況】 教員の肯定的回答率 100% ・目標値を上回った。 ・本年度は該当児童がいなかったが、特別な支援を必要とする児童同様、適切な支援を心掛けようと意識を高めることができていた。 【次年度の方針】 ・次年度についても、児童一人一人の実態に応じた指導や支援を心掛け、組織的に対応していくようにする。

A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校評価、行事アンケート等を検証し、児童や保護者の思いを生かした学校行事、児童会活動、学年活動等を設定し実施する。 ② 児童一人一人のよさを伸ばす指導に努め、特色ある学校づくりや特別活動、道徳教育を推進し、望ましい人間関係の醸成に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.5% ・目標値を上回った。 ・児童一人一人の良さを伸ばし、学校が楽しいと思える教育活動が実施できた。 【次年度の方針】 ・今年度の反省を生かして、学校行事や児童会活動、学年活動などの改善に取り組むとともに、特色ある学校づくり等を積極的に推進していく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 授業のねらいを明確にし、少人数指導やT.T、課題別学習など各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。 ② ICTを積極的に活用したり教材や提示資料を工夫したりして学習意欲を高める工夫をする。 ③ 朝の学習の時間を活用して基礎・基本の定着化を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.6% ・目標値を上回った。 ・授業の中で「ねらい」「まとめ」「ふりかえり」の一連の流れが定着してきている。 ・デジタル教科書や実物投影機、タブレットの活用が定着してきているので、児童の意欲や理解が高まってきている。 ・朝の学習時の漢字や計算を中心とした学習により、基礎・基本の学力が身に付いてきている。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間を活用して、基礎・基本の定着化を図る。宮っ子学習シートや漢字・計算オリンピックを活用し、計画的に繰り返し学習していくようにする。 ・個に応じた言葉かけや課題の提示の仕方を工夫する。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教員と専門性を有するスタッフとの間で、それぞれの役割を明確にしつつ、連携・分担を適切に行い、学校の教育力が最大化となるようなコミュニケーションを図る。 ② 校務分掌や学年の仕事分担の明確化と合理化を推進するとともに、「横央小の児童は、全教職員みんなで育てる」という意識をもって同歩調で指導に当たる。担任以外の児童にも声掛けができるよう、打合せ等での児童理解に努め、全教職員で見守っていく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 93.3% ・目標値を上回った。 ・かがやきルーム担当教員、養護教諭、図書館司書、栄養士、スクールカウンセラーなどと連携を取ることができた。 ・担任と連携して四つ星シールを活用することで、児童の頑張りを全職員で見守ることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、全職員で横央小の児童を育てるという意識のもと、教職員の連携を密にして対応に当たるようにする。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	① 学校内の多様な人材が能力を発揮し、それぞれの専門性を生かして授業を展開する。また、専門性を生かしながら、効率的な活用を模索し、教育活動を充実させ「チームとしての学校」を推進することで、業務の効率化を図る。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 63.3% ・目標値を下回った。 ・学校内の人材活用は進んでいるが、さらに教育活動を充実させるための打合せの時間の確保など、課題は多く「教員の業務の軽減」には至っていない。 【次年度の方針】 ・会議や研修などの持ち方を改善し、放課後の事務時間を捻出する工夫をし、学級事務や校務分掌など、個々の業務に充てる時間の確保に努める。 ・引き続き、学習支援ボランティア等に協力をいただき、教育活動の充実を図る。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答90%以上	① <u>乗り入れ授業、研究授業等の積極的な交流等を実施する。取組を積極的に保護者や地域の方々に知らせる。</u> ② 小中学校での相互の授業参観や研修授業等の積極的な交流を実施する。 ③ 地域学校園で取り組んでいる「あいさつ運動」や様々な取組について、各学年だより等で保護者や地域へ発信していく。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 84.0% ・目標値を下回った。 ・乗り入れ授業やあいさつ運動等の取組を、学年だよりや学校便りで発信してきたが、十分伝えることができていなかった。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育の取組について、懇談会や各種便りを活用して、分かりやすく具体的に発信していく。 ・「あいさつ運動」は継続し、児童の豊かな心の育成を図っていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① 街の先生や読書、安全ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした体験型学習の充実に努める。 ② <u>横川地域学校園で地域人材等の共有化を図る。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.3% ・目標値を上回った。 ・協力していただいている方々の活動が、児童に浸透してきている。 【次年度の方針】 ・読み聞かせボランティアや安全ボランティア、学習支援ボランティア等に、引き続き協力をしていただき、教育活動の充実を図る。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答90%以上	① 保護者による学習支援ボランティアや街の先生や読書、安全ボランティア等の地域教育力、企業の出前講座等を積極的に生かした体験型学習の充実に努める。 ② <u>横川地域学校園で地域人材等の共有化を図る。</u>	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 86.8% ・計画的に取組を行い、各種便りやホームページ等で発信してきたが、目標値を下回ってしまった。 【次年度の方針】 ・各学年において、地域ボランティアや企業の出前講座を活用する際、継続性や系統性のある教育活動ができるよう調整を図っていく。 ・本校の取組を発信するとともに、保護者のより一層の協力を呼びかける。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90% 以上	① 縦割り班による清掃指導の充実を図り、清潔で心休まる学習環境を整える。 ② 毎日荷物の整理や片づけをするなど教室の美化に努め、定期的に教材・備品等の整理整頓をする。	【達成状況】 保護者の肯定回答率 86.1% ・目標値を4%下回った。 ・日々の清掃活動では、隅々まで綺麗にすることを心掛けて行えた。 ・職員による、教材備品等の整理整頓を定期的に行えた。 【次年度の方針】 ・清掃時間以外にも、教室の荷物の整理や片づけを呼び掛け、安全に配慮した環境づくりに努める。 ・今年度の取組を継続して行い、清潔で心休まる学習環境を整えるよう努める。
A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒保護者の肯定的回答 90% 以上	① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書を有効活用していく。 ② 随時蔵書を点検し、図書選定委員会を通して計画的に補充していく。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 75.8% ・目標値を下回った。 ・授業で教師が実物投影機やデジタル教科書等を活用したが、ICT 機器や図書を学習に使っている様子を発信する機会がなかった。 【次年度の方針】 ・プログラミング教育とも関連を図り、保護者に積極的に ICT 機器や図書を活用した授業の様子について情報を発信していく。
B2 資料を効果的に活用して道徳の授業を行い、心の教育を推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、教科書の他に絵やいろいろな資料があって、楽しく授業に取り組める。」 ⇒児童の肯定的回答 90% 以上	① 課題提示を工夫したり、体験的な活動を取り入れたりして、道徳教育の充実を図る。 ② 地域活動を活性化し、<u>横川地域学校園で推進する心の教育の充実を図る。</u>道徳の授業公開を継続する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.2% ・目標値を上回った。 ・提示資料や ICT を活用することで、道徳的価値を自分のこととして考えられるような児童が増えた。 ・学校行事などの体験的な活動と関連付けて長期的に道徳の価値について考えられるように指導することで、全教育活動で道徳について意識するようになった。 ・授業参観などで、どのクラスも道徳の授業の公開をし、家庭との連携を図った。 【次年度の方針】 ・道徳主任を中心に資料を計画的に蓄積し、次年度につなげるようにしていく。 ・道徳ファイルを活用し、継続的に児童の心の育成を図る。

本校の特色・課題等	B3 読書活動により、豊かな心情の育成を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は進んでいろいろな本を読み、学習にも役立てている。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	① ボランティアによる読み聞かせやチャレンジブックを活用した読書活動の充実を図り、豊かな心の醸成を図る。 ② 学習において、知識を広げたり深めたりするために必要な図書を利用できるようにし、活動の充実を図る。 ③ 市の図書館と連携し、調べ学習などで積極的に活用する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 86.2% ・目標値を下回ったが、昨年度より上がった。 ・1月末現在で、1人当たりの読書量は51.1冊。継続した読書指導が思うようにいかなかった。 ・南図書館からの巡回図書を学年のフロアに設置することにより、進んで図書を利用することができた。 ・ボランティアによる読み聞かせは、全学年の児童が楽しみにしていた。 【次年度の方針】 ・幅広い知識が身に付けられるように、様々な本の分野の拡充に努める。また、授業で活用する場面を多くし、調べ学習において学習の幅を広げる。 ・地域の教育力を生かし、読書ボランティアによる読み聞かせを行い、児童の読書活動を推進する。 ・読書週間や教師による読み聞かせの実施により、読書の楽しさを味わわせ、読書への関心をもてるようにする。
-----------	--	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度の重点目標「思いやりの心の育成」から見ると、A2「思いやりの心」（A11「高齢者へのいたわり・感謝の心」）では、児童の肯定的回答は88.5%であり、目標値には達していないが、教職員・保護者・地域を含めた全体では93.6%で、市の平均よりも1.5ポイント高い。また、B2「道徳・心の教育」に関しては、児童の肯定的回答、92.2%であり、全体でも、95.7%と目標値を上回っている。「特別の教科道徳」を核として、心の教育が浸透してきているのが伺えるが、更に、実践力に繋がれるように、各教科や学校行事や日常の遊びや清掃などを通して、ふれあい活動・交流活動を推進していくと共に、常に人権感覚を身に付け、思いやりあふれる行動がとれる児童の育成を推進したい。 ・今年度の重点目標「学力向上」から見ると、A1「進んで学習」の児童の肯定的回答は92.6%、A18「分かる授業」の児童の肯定的回答は98.6%、A10「ICTや図書の活用」の児童の肯定的回答は92.2%で、いずれも目標値を達成した。また、市の平均よりも、全体で1.9%、0.7%、6.3%それぞれ高い。楽しく分かる授業を目指し、主体的・対話的で深い学びを促す学習指導や、ICTや図書の授業での活用の成果が見られる。しかし、一方で、A25（A10）は、保護者の肯定的回答は、75.8%で目標値に達していない。授業の中で、デジタル教科書や実物投影機、図書資料を活用している様子を、保護者に積極的に発信していくようにしたい。更に、今後はタブレットの活用やプログラミング教育の情報も発信していくようにしたい。また、A8「外国語活動でのコミュニケーション」の児童の肯定的回答は95.5%で、市の平均よりも7.2ポイント高く、外国語に対して意欲的に取り組んでいるのが伺える。更に、B3「進んで読書をし、学習に役立てる」の児童の肯定的回答は86.2%であったが、昨年度よりも9.5ポイント高くなっている。これは、授業での図書の活用や市の図書館との連携、ボランティアによる読み聞かせの充実の成果である。今後も、継続して取り組んでいきたい。 ・重点目標「リーダー性の育成」から見ると、A17「活気・明るい」の児童の肯定的回答は90.5%と目標値を達成した。これは市の平均より、1.3ポイント高い。また、A5「夢や目標に粘り強く取り組む」（A7「社会に貢献できるように努力する」）については、94.0%の児童が肯定的に回答している。これも市の平均より、4.7ポイント高い。更に、A13「特別な支援」の教職員の肯定的回答100%や、A15「不登校を生まない学級経営」の児童の肯定的回答96.5%といずれも目標値に達成しており、市の平均よりも1.4、0.9ポイントそれぞれ高い。教職員が、教育的ニーズに応じて一人一人の児童に配慮して児童指導や学級経営を行ってきており、児童がそれぞれのめあてに向かって素直に粘り強く努力している成果である。今後も、児童一人一人を生かす学級経営に力を注ぎ、特別活動の活性化を図り、多様な学びの場を充実させ、児童の社会性の育成に努めていきたい。 ・重点目標「地域と共にある学校づくり」から見ると、A22「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」（A23「学校・家庭・地域・企業との連携」）の児童の肯定的回答は95.3%と目標値を達成し昨年度とほぼ同じであったが、同じ質問項目の、教職員・保護者・地域の肯定的割合は昨年度よりも3.3～6.6ポイント下がっていて、市の平均と比べてみても2.2～3.0ポイント低い。安全・図書・町の先生などの、地域人材の高齢化に伴い、次の世代の人材確保や新しい分野の人材開発を早急に進めていかなければならない。

- ・今年度から、加わったA 9「宇都宮の良さ」については、総合的な学習の時間での学びや、図書館での常設コーナーの充実などを通して、また、A 1 2「持続可能な社会」については、清掃や栽培活動係活動などを通して、児童に意識づけを図っていきたい。
- ・教職員の働き方に関する、A 1 9「チームとしての協力」は、教職員の肯定的回答 93.3%と目標値を達成していて、様々な立場の教職員が協力して業務に当たっているが、A 2 0「勤務時間を意識して効率的に取り組む」は、教職員の肯定的回答 63.3%であり、市の平均よりもかなり低い。知恵を出し合い、業務の効率化を図っていきたい。

7 学校関係者評価

- ・学校支援ボランティアさんの高齢化に伴う人材確保に関しては、放課後子ども教室も同じように困っている。様々な方法で、協力していただける方を見つけていかななくてはならない。
- ・学校の先生は、子どもたちに熱心に指導していただいているが、アンケート調査を見ると、働き方の点で、先生方にかなりしわ寄せがあるように感じる。
- ・中学校の読書に関する学校評価についても肯定的割合が低かった。小学校から読書の習慣をつけていくことが大切であると感じる。
- ・今年度から入った新しい項目「持続可能な社会」等については、肯定的割合が低いが、丁寧に児童に教えたり、サポートしたりしていくようにするとよいのではないかと感じる。
- ・いじめ問題に関しては、児童は肯定的割合が低くはないのだが、保護者や地域の肯定的割合が低い。学校での取組を、積極的に発信していくようにしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの各項目において、本校では数値指標を肯定的回答率 90%以上としている。児童・保護者・地域・教職員の全体で捉えれば、全 28 項目中、それぞれの指標 90%を達成している項目は 22 項目ある。また、市全体と比較すると肯定的割合が市の平均よりも高い項目は、25 項目中 18 項目になる。全般的に、それぞれの内容について、概ね達成して、学校への教育に対し、児童・保護者・地域住民から高い信頼を得ていると言える。

学習指導に関しては、今年度の反省をもとに、更に継続・発展して取り組んでいく。特に、ICT 機器や図書資料の充実を図り、活用している様子を積極的に家庭に発信していくようにしたい。また、読み聞かせなどを通して読書活動を充実させ、小学校から読書の習慣が付くようにしていきたい。更に、新たに導入された「プログラミング教育」や「宇都宮学」や「持続可能な社会」についても、児童が理解しやすいように工夫した指導に心掛けたい。

児童指導に関しては、今年度の取組を更に継続していく。「思いやりの心」「決まりやマナー」「あいさつ」については、「特別の教科道徳」を核として、更に、実践力に繋がれるように、教育活動全般において推進していきたい。

学校運営に関しては、今年度の取組を継続・発展していく。現在配置されている、学校図書館司書やかがやきルーム指導員、ALT、スクールカウンセラーなどの専門性を有する学校スタッフと円滑にコミュニケーションを取りながら、教育活動の充実を図ると共に、学校支援ボランティアの積極的な活用を推進し、教職員全体の業務の見直しに取り組んでいくようにしたい。